第35回児童生徒読書感想文コンクール

今年度で35回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今年も優秀な作品が数多く寄せられました。

今回は、27点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童生徒の皆さんを紹介します。

また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。

■審査

次の各学校の先生方に審査をお願いしました。

（敬称略・（　）内は学校名）

- **小学校の部**
  鈴木 諭加（弟子屈小）／大野 澄江（川湯小）／後藤 牧子（和琴小）／森島 直子（美留和小）／池内 奈々江（奥春別小）／永井 優子（昭栄小）
- **中学校・高等学校の部**
  早川 将光（弟子屈中）／佐藤 未樹（川湯中）／眞野 春香（弟子屈高）

小学校の部 3年生

▶最優秀賞／髙本 琉奈 さん（川湯小）

選んだ本　ひとりじゃない

▶優秀賞／
白山 楓翔 君（弟子屈小）
海老名 沙霧 さん（美留和小）

小学校の部 4年生

▶最優秀賞／山崎 美玖 さん（弟子屈小）

選んだ本　はだしのゲン

▶優秀賞／
髙良　愛 さん（奥春別小）
渋谷 瑛一 君（川湯小）
横山 愛莉 さん（川湯小）

小学校の部 5年生

▶最優秀賞／野下 ちはる さん（和琴小）

選んだ本　妖奇城の秘密

▶優秀賞／
西郷 綾夏 さん（弟子屈小）

小学校の部 6年生

▶最優秀賞／羽田 菜々子 さん（弟子屈小）

選んだ本　やさしすぎる君へ

▶優秀賞／
中山 遥奈 さん（弟子屈小）
小林 明侑未 さん（美留和小）
冨田　哲 君（和琴小）

中学校の部 1年生

▶最優秀賞／江上 潔香 さん（弟子屈中）

選んだ本　犬との10の約束

▶優秀賞／
工藤 美優 さん（弟子屈中）
若月 恵理 さん（弟子屈中）
池上 温人 君（川湯中）

中学校の部 2年生

▶最優秀賞／山野 一歩 さん（弟子屈中）

選んだ本　水になった村

▶優秀賞／
髙橋 由芽 さん（弟子屈中）
那須　葵 君（弟子屈中）
長谷川 千紗 さん（川湯中）

中学校の部 3年生

▶最優秀賞／佐久間 健 君（弟子屈中）

選んだ本　イチローの流儀

▶優秀賞／
小澤 奏 君（弟子屈中）
山崎 遥香 さん（弟子屈中）

高等学校の部

▶最優秀賞／前川 千夏 さん（弟子屈高１年）

選んだ本　一瞬の風になれ

▶優秀賞／
芳形 明香 さん（弟高１年）
松田 悠乃 さん（弟高２年）

■小学校3年生の部　最優秀賞

ひとりじゃない

川湯小学校　髙本　琉奈 さん

私は、『ひとりじゃないよ』という絵本をよみました。

この本はうさぎさんの話で、小さなうさぎはふるさとをはなれ一人でくらすところから始まります。うさぎさんはウキウキしておかしをお腹いっぱい食べたり好きなテレビを見たりして楽しんでいました。私は、好きなことがたくさんできていいなと思いました。

そんな中、一人ぐらしを楽しんでいたうさぎがふと思ったことがあります。「だれとも話もしてないし、だれとも会ってない」。そのことでした。

そのことでさみしくなったみたいで、私もさみしく思いました。そんなうさぎさんは赤い電話を買ってはみたけれど、いつまでたっても電話は鳴りませんでした。「どうしたんだろう？」

その時、私はうさぎさんはバカだと思いました。そもそも、だれにもいる場所を教えてなかったのです。

うさぎさんはだんだん一人ぼっちが怖くなってきました。私も一人は怖いです。「なんとかしなくちゃ」と思い、うさぎは町の人に手紙を書き、ここにいるよと教えました。

それから何日かして、電話はかかってきたけれどまちがい電話ばかり。うさぎさんの思いはなかなか通じませんでした。せっかく友達ができるのにと思ったのに残念に思いました。

さらにうさぎは「声に出して言わないと」と思い、歩いている人にたくさん声をかけました。「こっち見て！」「だれか聞いて」「ここにいるよ」と言ってても、うさぎは小さすぎてだれも見てはくれませんでした。

がんばって声を出していたうさぎにようやく一人の子どもが気が付いてくれました。うれしかったと思ったのですが、その子はうさぎの耳を引っ張ったり突っついたりしました。そこにその子のお母さんが来て「さわっちゃだめよ」と言いました。すごくひどいお母さんです。

私は、どうしてうさぎさんにお友達が出来ないんだろうと思いました。うさぎさんは何にも悪いことをしていないのに、ふしぎです。

たくさん泣いていたうさぎさんのところに、キャラメル色の子犬が心配そうにうさぎのことを見ました。この犬もひどいことを言うのかな、と思ったら、子犬はうさぎさんの話を聞いてくれました。うさぎさんは「あのねあのね、私はずっと友達がほしかったんだ。やっとあなたが気づいてくれた。ありがとう、話しかけてくれて。」と泣きながら子犬に話しました。

それを聞いた子犬は「大丈夫、大丈夫。もう一人じゃないよ」と言ってくれました。すごく感動しました。

私もお友達や家族、そして私にかかわる人たちを大事にしたいと思いました。困っている人がいたら声をかけて助けたり、人の役に立ちたいと思いました。

うさぎさんに友達ができて本当良かったと思います。うさぎさん、これからもずっとなかよくいようね。

（寸評）ひとりぼっちのうさぎさんのさみしい気持ちに、ぴったりと思いを寄せている琉奈さん。子犬があらわれた時、うさぎさんと一緒に喜んでいる琉奈さんの表情が伝わってくるようでした。自分に関わる人たちを大事にしようと思わせてくれたこの絵本は、きっと宝物の中の一冊になることでしょう。琉奈さんの感想文を読んで、この絵本を読みたくなりました。

■小学校4年生の部　最優秀賞

戦争のおそろしさ

弟子屈小学校　山崎　美玖 さん

このお話は、戦争のおそろしさを書いた本です。主人公の元は元気で明るい男の子で、原ばくが落ちた時は、今のわたしより二才下の小学二年生です。

そのころ、広島のほとんどの家は、お金がなくて、どの家もまずしい生活をしていて、お米を買うお金さえありませんでした。わたしだったら、ごはんを全然食べられなかったら、おなかをすかしてたおれていたと思います。なのに、ごはんを食べられないなんて、すごくつらかったと思います。元は毎朝学校に行くと、戦争の訓練がありました。ばくだんが落ちてきた時に、火を消す、バケツリレーやアメリカ兵が来た時にたおす、竹ヤリの訓練をしていました。最初は、勉強をしないで訓練ばかりしている元を、少しうらやましいと思ったけど、人をたおす訓練なんて、すごくおそろしいことだと思いました。

今から六十四年前（昭和二十年）の八月六日午前八時十五分に広島に原ばくが落とされました。いっしゅんにして辺りは火の海になって、原ばくの光線にまともに当った人は全身が焼けただれ、肉がむきだしになりました。この原ばくで、たくさんの人々がなくなりました。元のお父さんと弟とお姉ちゃんと原ばくのあとに生まれた赤ちゃんもなくなってしまいました。もし、わたしの家族が目の前で死んでしまったら、わたしは元のように強く生きられただろうか。きっと、毎日毎日泣いていると思います。でも元は、わたしとちがって強いです。そのことで、ずっとくやんでいないで、明日に向かって前向きに生きています。

戦争は、地ごくです。つみのない人々がたくさん死んでいきます。落とされた原ばくのこういしょうで六十四年たった今でも苦しんでいる人がいます。戦争が終わったのは、広島に原ばくが落とされた九日後の八月十五日でした。日本がもっと早くこうさんして、戦争が終わっていれば、広島に原ばくは、落とされなかったと思います。どうして、戦争で平和になれると思う人がいるんだろう。そういう人は、おかしいと思う。わたしは戦争を二度とやってはいけないと思います。

わたしはこの本を読み終わって「原ばくが広島じゃなく、弟子屈におちていたら、どうなっていたんだろう。」と考えました。もしかしたら、わたしのおじいちゃん、おばあちゃんは、死んでいたのかもしれない。そう考えてみると、わたしのお父さんや、お母さんもいなくて、わたしは生まれていなかったと言うことになります。それを思うと、悲しくてさびしい気持ちになりました。

この本を読んで、わたしは戦争のおそろしさ、命の大切さを知りました。なので、わたしはこれから、命を大切にして生きたいです。そして、もう戦争がおこらないように、願います。

（寸評）戦争の時代に生きた少年の生き方と今の時代を生きる自分とを比べながら、自分の考えをしっかり書けていましたね。この本を通して、戦争のつらさや恐ろしさだけでなく、命が受け継がれてきたのだという事にも気づけたところがすてきだと思いました。山崎さんが大人になった時にも、戦争のない平和な時代がつづくといいですね。

※そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。